

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年	
330014	X-21-B-2-330014	2	前期	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	選択	2年	
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	2年	
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	選択	2年	
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	2年	
現代アメリカ論	安藤 潤			【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×	
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×	
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×	
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×	

授業目的

この講義の目的は、第2次世界大戦後から第1期オバマ政権までの米国経済を振り返りながら基軸通貨ドルに対する信任がなぜここまで低下してきたのかその背景と「世界一の経済大国」としてのアメリカ経済の特徴や問題点を理解し、現代のアメリカを学ぶことでグローバルな課題に批判的な問題意識と建設的な眼差しをもって向き合う実践的な態度を獲得し、国境を越えた個別具体的問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得し、国際学部のディプロマ・ポリシーを満たすことである。

各回毎の授業内容

<p>第1回 【授】イントロダクション 【前・後】【予・復習に4時間】指定図書などでどのようなことを学ぶのかを知り、考えておくこと。</p> <p>第2回 【授】戦後アメリカ経済史①—主に戦後から1970年代まで 【前・後】【予・復習に4時間】参考書[5]第3章・第4章1。授業後は参考書[7]などで補足しておくこと。</p> <p>第3回 【授】戦後アメリカ経済史②—主にレーガン政権・ブッシュ父政権を中心に 【前・後】【予・復習に4時間】参考書[5]第4章2。授業後は参考書[7]などで補足しておくこと。</p> <p>第4回 【授】戦後アメリカ経済史③—主にクリントン政権を中心に 【前・後】【予・復習に4時間】参考書[5]第4章3。授業後は参考書[7]などで補足しておくこと。</p> <p>第5回 【授】戦後アメリカ経済史④—主にブッシュ政権を中心に 【前・後】【予・復習に4時間】参考書[4]第7,8章。授業後はブッシュ政権については[4]もしくは[6]の該当箇所を補足しておくのが望ましい。オバマ政権に関しては新聞・雑誌記事検索（雑誌なら『エコノミスト』『週刊東洋経済』など）で補足しておくのが望ましい。</p> <p>第6回 【授】戦後アメリカ経済史⑤—主にオバマ政権を中心に 【前・後】【予・復習に4時間】参考図書[14] I および II。</p> <p>第7回 【授】アメリカの財政赤字①「双子の赤字」と基軸通貨ドル 【前・後】【予・復習に4時間】できれば「国際経済学」の本で経常収支のISバランス・アプローチで政府の貯蓄と経常収支の関係を学習しておくのが望ましい。授業後はアメリカが基軸通貨国として得ている特権はなにか、双子の赤字を抱える国との比較をしたらうえでまとめておくのが望ましい。</p> <p>第8回 【授】アメリカの財政赤字②債務上限額引き上げ問題と「財政の崖」 【前・後】【3】授業後は新聞記事検索で補足しておくのが望ましい。</p>	<p>第9回 【授】アメリカの経済格差①—ジェンダー経済格差 【前・後】【予・復習に4時間】授業後は日本など他の国と比較しておくのが望ましい。</p> <p>第10回 【授】アメリカの経済格差②—新自由主義と所得・資産格差 【前・後】【予・復習に4時間】[4]第1章。授業後は日本など他の国と比較しておくのが望ましい。</p> <p>第11回 【授】アメリカの「食」—巨大食品産業とアリス・ウォータースの「おいしい革命」 【前・後】【予・復習に4時間】[1]第1章、[3]第2章、[12]第5章、第6章。授業後は[13]。</p> <p>第12回 【授】アメリカの軍事経済 【前・後】【予・復習に4時間】[7]第1章、[9]第2章、[11]第2章。授業後は[1]第5章、[10]第1.4.5章で補足を行っておくのが望ましい。</p> <p>第13回 【授】アメリカの医療問題①—アメリカの医療保険制度 【前・後】【予・復習に4時間】[1]第3章、[5]第11章1,2,3。授業後は[4]第5章などで補足しておくのが望ましい。映像ではアメリカの医療制度の問題点を指摘したマイケル・ムーア監督の『シッコ』（図書館にあり）を観ておくとその恐ろしさが実感できる。</p> <p>第14回 【授】アメリカの医療問題②—医療保険制度改革 【前・後】【予・復習に4時間】[8]第13章4,5,6,7。授業後は新聞記事検索でアバマ政権の公的医療保険制度を調べて補足しておくのが望ましい。</p> <p>第15回 【授】まとめ 【前・後】【予・復習に4時間】配布済みプリントでこれまでの授業内容を振り返っておくこと。</p> <p>第16回 【授】定期試験 【前・後】【予・復習に4時間】ノート、配布資料でよく勉強して臨むこと。</p>
--	---

成績評価方法

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	強調・指導力	発表・表現	その他	評価割合(%)
定期試験							50
小テスト・授業内レポート							20
宿題・授業外レポート							30
授業態度・授業への参加							
成果発表（口頭・実技）							
演習							
その他							

定期試験を50%、コメントカードの提出回数・内容を20%、指定教科書を使用したレポートを50%として成績判定を行う。成績は本学の基準に従う。合格者数、平均点などはポータルや掲示にて公表し、講評を加える。

教科書参考書

レポート指定教科書は
安藤潤『ポスト冷戦期における日米防衛支出の実証分析』文眞堂、2018年3月発行予定
参考書は指定図書すべてであるが、主に以下のものを利用してほしい。購入は求めないが、上記各回の授業における事前学習に示されている部分をコピーするなどして授業に臨んでもらいたい。

[1]堤未果『貧困大国アメリカ』岩波書店
[2]堤未果『貧困大国アメリカII』岩波書店
[3]堤未果『(株)貧困大国アメリカ』岩波書店
[4]坂井誠『現代アメリカの経済政策と格差』日本評論社
[5]村山裕三・地主敏樹編著『アメリカ経済論』ミネルヴァ書房
[6]河音琢郎・藤木剛康編著『G・W・ブッシュ政権の経済政策』ミネルヴァ書房
[7]河村哲二『現代アメリカ経済』有斐閣
[8]藤田伍一・塩野谷祐一編『先進諸国の社会保障⑦アメリカ』東京大学出版会
[9]ポール・ポースト『戦争の経済学』バジリコ
[10]ジョセフ・E・スティグリッツ『世界を不幸にするアメリカの戦争経済』徳間書店
[11]横田茂編『アメリカ経済を学ぶ人のために』世界思想社
[12]本間千枝子・有賀夏紀『世界の食文化⑩ アメリカ』農文協
[13]アリス・ウォータース+NHKエンタープライズ取材班『アリスのおいしい革命』文芸春秋
[14]萩原伸次郎『オバマの経済政策とアベノミクス』学習の友社

受講に当たっての留意事項

遅刻には注意すること。授業中はスマートフォン、携帯電話の類は必ず電源を切ってカバンなどにしまっておくこと（机の上には出さないこと）。グラフや表を多用するが、「経済学（マクロ）」で使うような数式は用いない。私語は厳禁。注意しても私語を続ける者は退室を願うことがある。体調不良などやむを得ない場合を除き大幅な遅刻・途中退席はしないこと。授業中は歩き回らないこと。ただし病気などでやむをえず一時退出せざるを得ない者は事前に教員に伝えること。携帯電話・PHSの類は必ず電源を切ること。飲食禁止。コピーを配布するが、欠席をした者は自己の責任でそろえること。板書したことだけでなく、重要と思われる点は各自ノートに書いておくこと。

情報文化学科でアメリカ英語を選択している2年生以上の学生は選択必修科目なのでこの科目の単位を取得しない限りは卒業できないことを忘れないように。

学習到達目標

アメリカ経済の真実に気づくこと。
新聞やニュースでのアメリカ経済に関する報道を少しでも理解できるようになること。
これはアメリカについてではなく、日本にも十分起こりえることだと認識できるようになること。

JABEE

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習